

1 研究主題 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図る教育の充実に向けて」

2 研究の具体

幼稚園教育要領等や小学校学習指導要領では、持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力の育成や、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化など、学校種や施設類型を越えて子どもの成長を支える手掛かりが共通に整理されている。

また、令和4年3月には中央教育審議会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」の審議経過報告が取りまとめられ、『幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)』及びその参考資料(初版)が策定された。幼保小の架け橋期(0～18歳の学びの連続性に配慮しつつ、5歳児～小学校1年生の2年間を対象)にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤が育まれるよう、各地域や施設の創意工夫を生かした取組の充実が求められている。

<本県の取組>

(1) 幼児教育長期研修

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に向けた連携の推進を図るため、小学校教諭が近隣の幼稚園等において、1年間幼児期の教育に携わり理解を深めることを目的とし、平成22年度から実施している。派遣教員は、コーディネーター役となって幼児と児童の交流活動及び教員等間の研修の計画を立て、実践につなぐとともに、接続期(5歳児後期・1年生入学期)の指導の工夫及び発達や学びをつなぐ教育課程の編成や指導計画の作成についても研究を進め、1年間の研修を終え小学校に戻ってからも、引き続き実践的研究を行っている。

(2) 幼・保・こ・小理解研修会

幼稚園教員、保育士、保育教諭、小学校教員が相互の教育について理解を図るとともに、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方を探るために必要な協議を行い、教員の指導力の向上に資することを目的として実施している。「幼児教育と小学校教育の円滑な接続について考える～幼児・児童の具体的な姿や幼児教育長期研修教員の実践から～」等のテーマで、実践発表や協議を行っており、令和4年度の協議では「表現力の芽生え」や「表現力の基礎」という視点で、長期研修教員の実践発表から共感したことや発見したこと、これまでの自分の実践等について交流し、「学びをつなぐ」ことについて考えを深めていった。

【幼児教育長期研修 派遣教員による実践発表①】

幼児教育長期研修で学んでいること

さぬき市立さぬき北小学校 細川 愛 (令和5年度 派遣教員)

研修園：さぬき市立志度幼稚園・さぬき市立さぬき北幼稚園

就学前教育は「遊び」を通しての指導を中心とした教育・保育であり、自発的な活動としての遊びこそ人間形成の基盤となる学びである。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を手がかりに、子どもの育ちや学びを小学校の教員と共有し、学びをつないでいく。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)

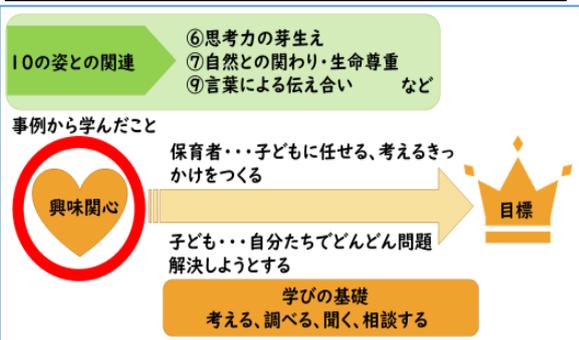
- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活とのかかわり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量・図形・標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

小学校と幼稚園の
学びをつなぐ
手がかりに

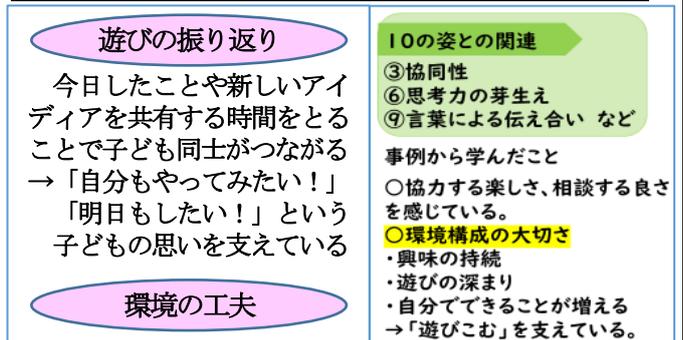
※ 到達目標ではない。

○遊びの中の学び～事例から学んだこと～

「カエルのお家を作ろう(志度幼 年中児 5月)」



「あおぐみランドを作ろう(志度幼 年長児 6～7月)」



○幼小交流～相互にメリットを感じられる交流に～

夏祭りの風鈴を作ろう (さぬき北幼 年長児 6月)

○ねらい: 園児と児童と一緒に活動するなかで、互いの顔と名前を覚えたり会話をしたりする機会にする。

○日時: 令和5年6月26日(月) 1年生と3年生
7月10日(月) 2年生

○参加者: さぬき北幼稚園園児(年長児2名)、さぬき北小1年生～3年生の児童(希望者)

○場所: さぬき北幼稚園の遊戯室

交流を通しての振り返り

園児

- 普段の幼稚園にはない刺激(人数や空間などの環境)がある。
- 互いに顔と名前を知ることができた機会になった。
- 児童の作る姿を見たり、取り入れたりしながら自分の作品に生かしていた。

児童

- 年下の子に優しくしたり、思いやりをもったりする姿が見られた。
- 幼稚園に近い存在に感じられるきっかけになった。

今後は…

- 思いに沿った遊びの中で日常的な交流ができる仕組みをつくる。(昼休み交流など)
- それぞれの行事を活用する。
- 教員同士の交流、相互理解を深める機会をつくる。

【幼児教育長期研修 派遣教員による実践発表②】

幼児期の「学び」を小学校の「学び」へ滑らかにつないでいくスタートカリキュラム

三豊市立吉津小学校 河田 菜摘 (令和4年度 派遣教員)
研修園: 三豊市立吉津幼稚園

研修では1年間を通して子どもたちの遊びの様子や保育者のかかわりを見つめ、子どもたちの姿から幼児期の学びの芽生えを感じることができた。遊びや生活を通して自然に疑問が生まれ、その疑問を解決するために友だちとかかわり合いながら試行錯誤する姿も、学びの芽生えの一つであり、小学校以降の主体的・対話的で深い学びへとつながっていくのではと感じた。

<スタートカリキュラム作成ポイント>

- ・吉津小学校らしいか
- ・子どもたちの小学校への期待がスムーズにつながっているか
- 子どもの立場に立ったスタートカリキュラムになっているか
- ・1年生なりにできることを生かすために、学びが深いのか

○スタートカリキュラムの工夫

スタートカリキュラムを構成する活動の類型

- 一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらった活動(安心をつくる時間)
- 合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習活動
- 教科等を中心とした学習活動

第1週 ねらい「小学校の生活に慣れる」

第2日目(4/10)	第3日目(4/11)	第4日目(4/12)
<p>ほっとタイム(6年生と片付け一教室で自由遊び)</p> <p>わくわくタイム(みんなが好きなものを動かしながら音読をする。)
(とんとんとん)</p> <p>わくわくタイム(自分の好きなものを絵に描く。)
(好きなものを絵に描く。)</p> <p>わくわくタイム(自分の好きなものを絵に描く。)
(好きなものを絵に描く。)</p>	<p>ほっとタイム(6年生と片付け一教室で自由遊び)</p> <p>ほっとタイム(お話しタイム)</p> <p>わくわくタイム(自分の好きなものを絵に描く。)
(好きなものを絵に描く。)</p> <p>わくわくタイム(自分の好きなものを絵に描く。)
(好きなものを絵に描く。)</p>	<p>ほっとタイム(6年生と片付け一教室で自由遊び)</p> <p>ほっとタイム(お話しタイム)</p> <p>わくわくタイム(自分の好きなものを絵に描く。)
(好きなものを絵に描く。)</p> <p>ほっとタイム(自分の好きなものを絵に描く。)
(好きなものを絵に描く。)</p>

15分モジュール 教師側が流れを把握するためのもの

1週間ごとのめあて

11:30-12:00	12:00-12:30	12:30-13:00	13:00-13:30	13:30-14:00
<p>朝の登校後は、「ほっとタイム」として、自由遊び</p> <p>①あさのかい (1)みんなであいさつ (2)みんなが好きなものを絵に描く (3)みんなであいさつ</p> <p>②みんなであいさつ</p>	<p>①あさのかい</p> <p>②みんなであいさつ</p>	<p>①あさのかい</p> <p>②みんなであいさつ</p>	<p>①あさのかい</p> <p>②みんなであいさつ</p>	<p>①あさのかい</p> <p>②みんなであいさつ</p>

朝の登校後は、「ほっとタイム」として、自由遊び

その授業でできることを子どものことばで書く

主体的に取り組むことができる活動

生活科を中心とした合科的な授業

○幼児期の学びを生かしたスタートカリキュラムの実践事例

授業

言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

国語「すきなものいっぱい」ねらい 自分が好きなものを絵に表す活動に楽しく取り組むこと。

国語「よるしくね」ねらい 他者に関心をもち、名前などを伝え合って、互いのことを知ることができる。

生活科「がっこうたんけん(全10時間)ねらい 自分たちが立てて探検をし、学校には色々な場所やもの・人がいることに気づき、考えることができる。

国語「ひとつつながるこぼし」「こえをどけよう」「みんなにはなそう」他、国語・算数など

見つけたハテナ・ビックリ報告会(国語・図工等)

もっと知りたい教室を自分たちで探検(1～3階)【ハテナやビックリを見つける】

1年生全員で 2年生と 先生となかよし大作戦

学校生活

朝の片づけミッション!

10:30-11:00	11:00-11:30	11:30-12:00	12:00-12:30	12:30-13:00
朝の片づけミッション(朝の片づけ)	朝の片づけミッション(朝の片づけ)	朝の片づけミッション(朝の片づけ)	朝の片づけミッション(朝の片づけ)	朝の片づけミッション(朝の片づけ)

フリースペースで、笑顔のスタート!

いつでもつかえるよ!

絵本・折り紙・トランプ・福笑いなど

幼児期の学びを意識して活動を組んだことにより、子どもも教師も安心して小学校生活をスタートすることができた。また、フリースペースを設けたことで子どもたちはリラックスして遊ぶことができ、子ども同士のつながりができて、安心して活動に入ることができた。今後も、子どもが主体的に考え活動できる仕掛けを考えるとともに、保・幼・小の連携を大切に、子どもの実態を把握した上でカリキュラムを組んでいきたい。